

理事長ご挨拶

オーラルプラセンタ医学研究会理事長
王宝禮

「数千年の歴史をもつプラセンタ療法を歯科医療に」



プラセンタは、エジプトのクレオパトラや中国の楊貴妃が活用したと言われていますが、文献に記載が出てくるのは中国の唐時代の「本草拾遺」(「人胞」「胞衣」の名前で記述)、明時代の「本草綱目」(「紫河車」の名前で記述)、韓国の「東医宝鑑」(「紫河車」の名前で記述)に記載があります。現在でも、中国では胎盤を煎じた中薬薬があり、日本では、紫河車という名前で医薬品の漢方薬が販売されています。このように、プラセンタ療法は西洋医学であり東洋医学でもあるわけです。

現代医学におけるプラセンタ療法の夜明けは、1933年旧ソ連の眼科医フィラトフ博士は、埋没療法という様々な生体組織を体内に埋め込むという治療法を考案しました。その一環として、胎盤を利用し、良好な結果が出た事が知られています。この埋没療法が日本に伝わり、胎盤埋没療法から、1950年代プラセンタ注射薬が開発され現在にいたります。

さて、内科では保険診療で処方医薬品のプラセンタ注射薬で「肝硬変症・慢性肝疾患」「更年期障害」「乳汁分泌不全」の適応症があり、かつ多彩な効果効果が報告

されています(図1,2)。それゆえ、口内炎、口腔乾燥症、味覚障害、口臭症、舌痛症などの口腔疾患や口腔不定愁訴に対し、「補完代替医療」として可能と考えます。

今、数千年の歴史をもつプラセンタ療法を、EBMをもとに歯科医療に届けるよう努力してまいります。

図1 プラセンタの薬理作用

- 自律神経調整作用 (自律神経を調整する)
- 内分泌調整作用 (ホルモンを調整する)
- 血圧調整作用 (血圧を調整する)
- 精神安定作用 (精神を安定させる)
- 抗アレルギー作用 (アレルギーを抑える)
- 活性酸素除去作用 (活性酸素を除去し、酸化を防ぐ)
- 抗炎症作用 (炎症を抑える)
- 抗突然変異作用 (突然変異を抑える)
- 強肝・解毒作用 (肝臓の働きを強化する)
- 妊婦の乳汁分泌促進作用 (妊婦の乳汁分泌を促す)
- 体質改善作用 (体質の改善を促す)
- 血行促進作用 (血液循環を良くする)
- 造血作用 (血液の生成を促す)
- 疲労回復作用 (疲労の回復を促す)

凡例 → 恒常性、安定 ✓ 抑制、下降 ↗ 促進、上昇

図2 プラセンタの有効な領域・疾患

婦人科	更年期障害、月経痛、月経不順、乳汁分泌不全、高プロラクチン血症など
内科	肝炎、肝硬変症、慢性肝炎、糖尿病、慢性胃炎、胃弱、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、気管支喘息、慢性気管支炎、高血圧、低血圧、習慣性便秘、膠原病など
外科	慢性間接リウマチ、変形性関節症、関節炎、神経痛、腰痛、五十肩など
皮膚科	アトピー性皮膚炎、乾癬、わきが、湿疹、あかぎれ、シミ、ソバカスなど
精神科	自律神経失調症、不眠症、不安神経症など
泌尿器科	前立腺肥大、膀胱炎、痔、夜尿症、性欲低下など
眼科	白内障、アレルギー性結膜炎、視力低下、眼精疲労など
耳鼻咽喉科	アレルギー性鼻炎、メニエール病、花粉症、めまい、難聴など
歯科	歯周病、味覚低下、口内炎、舌炎、口腔不定愁訴 など
その他	疲労、冷え性・虚弱体質、病中病後の疲労回復、強壮、強精など

お知らせ

第4回オーラルプラセンタ医学研究会セミナー

日本歯科医師会生涯研修事業認定研修会

2015年7月26日(日) 午後1時～午後6時(受付12時30分)

中央大学 駿河台記念館(東京都千代田区)にて開催

「歯科医院の診療に導入できるプラセンタ療法とは」

理事長講演 『何故プラセンタ療法が歯科医療に有効なのか?』(認定医講習会)

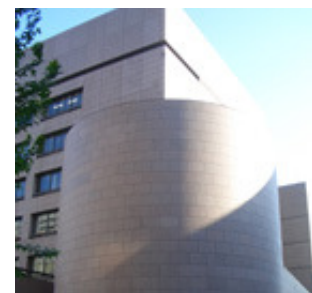
指導医講演 ・プラセンタ療法を普及させる歯科医院作り

・症例報告(口内炎・歯周病・ドライマウス・口角炎・舌痛症)

・混合診療への対応

・サプリメントと注射の効果の違い

・認定医試験



〔中央大学駿河台記念館〕

既に導入済みの方も、導入はこれからという方も、お役に立てただけのものと思います。ぜひともご参加ください。お待ちしております。



私は2009年からプラセンタ療法を歯科に取り入れてきました。導入当初は、プラセンタ注射は家族と同意を得たスタッフがメインでしたが、プラセンタ注射を継続する事で、睡眠の質が改善し、歯肉の発赤等が軽減していくのを実感しました。この体験は私だけでなく、スタッフも同様でした。この体験から、それまで美容やアンチエイジングとしか捉えていなかったプラセンタに対する認識が変化し、スタッフがより一層プラセンタに興味を持ち、「プラセンタの効能」、「自律神経とプラセンタ」、「歯科領域でのプラセンタ療法の歴史」など、プラセンタ関連の院内研修が自然と増えていきました。プラセンタに対する知識が増えていくことで、「口内炎で悩んでいるAさんにプラセンタは有益かも」、「仕事が忙しく、歯茎が腫れたときだけ来院されるB氏に勧めたい」、「舌がピリピリすると言っているCさんの症状が緩和されるかも！」と、患者さんの症状を思い浮かべながら、活発なディスカッションが繰り返されました。

現在では、オーラルプラセンタ医学研究会が認定する「プラセンタアドバイザー」に合格したスタッフが、患者さんの症状をお尋ねしながらプラセンタ療法についてその効能、効果と歴史的背景まで説明をしております。治療方針は最終的に私が下しますが、患者さんとのコミュニケーションが今までより活発になり院内の雰囲気明るくなりました。

当院でプラセンタ療法を導入した背景には、口腔内の諸問題を解決できずドクターショッピングされている患者さんを救うことにありました。仕事が忙しく来院する時間が作れず、歯周組織の状態が悪化する(主にストレスが原因の)症例には、医科専売のプラセンタサプリメントを紹介し、とりあえず症状の悪化を防ぐ事に重きを置きます。通院可能な患者さんには、より早く症状緩和が得られるようにプラセンタ注射(皮下もしくは筋肉のみ)をお勧めし、経済的負担を考慮しながら治療計画を立案しています。今ではプラセンタ注射のみで来院される方、サプリメント購入のみで来院される方も増えてきました。

歯科領域での正しいプラセンタ療法が普及するためには、当研究会が認定するオーラルプラセンタアドバイザーの役割が重要だと感じています。会員の皆様のお力添えを賜りながら、オーラルプラセンタアドバイザーを育て様々な症状で悩まれている患者さんが救われればと願っております。

「プラセンタの歯科への導入」

オーラルプラセンタ医学研究会 理事
榎屋 榎屋 順一
院長



私は長崎市の開業医です。プラセンタを導入しておよそ2年が経過しました。

最初はその歯科的な適応症とそのエビデンスについて文献を含めた検索から始めましたが、歯科における学術的論文や臨床報告は非常に少ないという印象でした。それで、まずは医科での適用方法について理解する事から始めました。

医科では婦人科や内科等で使われており、決して美容的な使い方だけではないという事がわかりました。すなわち、一定のエビデンスの下で治療が行われ、効果が認められているようです。そのため、保険適応となる場合があります。医科ではその適応方法が注射によるもので、サプリメントは第2選択のようですが、歯科においてはサプリメントが導入しやすいように思えます。というの

も注射を行うと医療行為となり混合診療の問題があります。また歯科医療機関で注射を行うのは技術的、設備的ハードルが高いと思います。よってオーラルプラセンタ医学研究会では、サプリメントでの適応を推奨しています。ただしサプリメントを患者さんに服用して頂く場合には、別のハードルが存在します。すなわち、他にも多くのプラセンタを含むサプリメントが存在するので、そのサプリメントとの違いを説明する必要があります。

またサプリメントを勧める行為自体が、医療行為とは異なると受け取られる可能性があるため、慎重な説明が必要です。そのためには、まず医院スタッフを交えての勉強会を行って、全スタッフがプラセンタを理解する事から始める必要があります。そして、服用した患者さんからその臨床的な変化について情報を得て、そのデータを蓄積する事が重要です。

そのためにも、将来的に多くの会員の先生方の臨床データを収集できれば、いろいろなベネフィットを得る事が出来ると思います。このような考え方で、プラセンタの歯科応用を、健全な形で確実にすすめて行こうと思っています。

皆様、こんにちは。長谷川 靖史と申します。

私は、大学卒業後2件の開業医で、勤務後卒業後3年目で開業致しました。

ここから少し私のクリニックでの使用法などを簡単にご説明させていただきます。

歯科領域では、歯周病 顎関節症 味覚低下 舌炎 抜歯・インプラント手術後の治癒促進にプラセンタがよく効くとされており、そこで選択されるのが、注射とサプリメント及び内服剤です。注射は内服剤やサプリメントに比べ、はるかに即効性に優れています。とはいっても、効果が持続する時間には限りがあるので、やはり定期的に通院して頂く必要があります。そこで注意点が2つあります。先ず1つ目は患者様へのプラセンタ療法を行う目的の伝え方です。あくまでも歯科領域での適応症を遵守して下さい。疲れが取れて元気になる。美容効果がある。などの表現は決してされないようにご注意下さい。

2つ目は混合診療の問題です。例えば歯周病の治療の為にプラセンタ療法を併用するケースでは、同日の1診療でのスケーリング及びSRPなどの処置と同じワンチャータイムでプラセンタ注射を行うと、これは完全に混合診療になってしまいます。この場合、スケーリング及びSRP等の保険診療の請求が算定出来ない可能性が十分にある。ということです。このことは、歯周初期治療だけに拘らず歯周外科時でも同様です。そこで私のクリニックでは歯周治療などの保険診療を行う際は、ワンチャータイムでのプラセンタ注射は行わず、保険治療が終われば一度会計をして頂き再度、特診室に入って頂きプラセンタ注射のみを行います。あるいは、可能であれば別の日にプラセンタ注射のみで御来院頂く様にしております。インプラント手術などの自費診療の際は、混合診療は一切関係ありませんので術後プラセンタ注射を致しております。

最近では、内服剤やサプリメントを患者様にはおすすめており混合診療にならない様にスタッフ一同で考えながら取り組ませていただいております。

補足ではありますが、インプラント手術やGBR時にCGFを使用する際にプラセンタ投与をする前よりも投与後の方がフィブリンゲルの大きさがかなり大きくなります。これはプラセンタの薬理作用での活性酸素除去作用や血行促進・造血作用、基礎代謝向上作用によるものだと考えられます。インプラントのインテグレーションも早くなりより骨との結合力が強くなった様に思われます。



「医科、歯科におけるプラセンタ療法の基本的な考え」

医師 王 龍三 医学博士(京都大学)

プラセンタ注射には、厚生労働省(旧厚生省)から1950年代に認可された一般名としてヒト胎盤抽出物、商品名として「ラエンネック」と「メルスモン」、の2製品があります。ラエンネックの適応には、肝硬変症・慢性肝疾患における肝機能の改善であります。薬効・薬理は、肝再生促進作用、肝細胞DNA合成促進作用、実験的肝障害抑制作用、抗脂肪肝作用、間質結合織の吸収促進作用であります。また、メルスモンの適応には、更年期障害、乳汁分泌不全である。薬効・薬理は、組織呼吸促進作用、創傷治癒促進作用、抗疲労作用、硝子体及び球結膜下出血の吸収促進作用である。有効成分は相関しているものの、適応は違います。

さて、このような適応から、薬事法ではプラセンタ注射に美容効果などがあるとは認めていません。そのため、皮膚科や美容外科では、美容(しみ、そばかす、にきび予防、皮膚の活性化、若返り効果)、疲労回復、アンチエイジングと称して使用する場合には、適応外処方では医師の裁量権で、保険外診療となります。歯科医師はこれらの病名で保険外診療であろうと、処方できません。

一方、サプリメントや注射のプラセンタによる歯周病治療の臨床研究の論文が散見しています。それゆえ医科でのプラセンタ療法の専門医の多くは、プラセンタが歯周病に有効であることを論文から認知し、患者様に説明しています。医師の立場からもプラセンタは歯科医療にも可能性のある物質だと思えます。実際、歯科医師の裁量権で口腔疾患に対して自由診療で投薬できます。但し、全責任は歯科医師にあることを忘れてください。注射においては、献血が禁止であり、性別や年齢も考慮しなければなりません。

また、医学部教育と歯学部教育は卒前、卒後教育に大きな相違があり、安易にプラセンタ注射を患者様に推奨することは避けるべきです。そのため歯科の先生方は、十分なプラセンタ療法の研鑽を積まれてください。

オーラルプラセンタ医学研究会・過去のセミナー

第1回 福岡セミナー

平成25年9月1日(日)
TKP ガーデンシティ博多

プログラム

- ・プラセンタの口腔疾患克服への可能性
- ・プラセンタの基礎知識
- ・プラセンタ導入による医院の変化
- ・日常歯科臨床へのプラセンタの応用

記念すべき第1回目の講演会が博多で開催されました。およそ60名の方に参加いただき質疑応答の時間は大変盛り上がりました。講演会の後、演者と参加者との交流の場として懇親会を開きました。多忙の中、半数以上の方に参加いただき、和やかな雰囲気の中、第1回記念講演は幕を閉じました。

第2回 大阪セミナー

平成26年5月25日(日)
大阪大学中之島センター

プログラム

- ・歯科医療に未来あるプラセンタ療法
- ・歯科医院で行えるプラセンタ療法
- ・プラセンタ療法における症例報告
- ・プラセンタ療法導入して
- ・プラセンタ製品について
- ・認定医(アドバイザー)試験

大阪で行われた第2回目は、近畿地方を中心におよそ90名の方に参加いただきました。認定医制度が設けられ、今セミナーから認定医試験が行われるようになりました。前半の講演は試験の講習も兼ねた内容で、ほぼ全員がセミナー後の試験を受験されました。合格された方は後に認定証が交付されました。

第3回 東京セミナー

平成26年11月30日(日)
日本歯科大学 九段ホール

プログラム

- ・歯科医療に未来あるプラセンタ療法
- ・プラセンタ療法を導入するためのスタッフ教育
- ・プラセンタの口腔疾患への臨床エビデンス
- ・プラセンタ療法導入による歯科医院の変化
- ・歯科医院におけるプラセンタ治療の展開方法
- ・認定医(アドバイザー)試験

第3回目は東京ということで、北海道から九州まで全国各地から100名を超える参加者にお集まりいただきました。患者様へのプラセンタ療法のすすめ方から治療の方法や、多数の症例報告など充実してきました。今回現場スタッフの教育にも触れ、多くのアドバイザーが誕生した会となりました。



「かつて、プラセンタ注射薬には歯周病の適応があった。」

歯科医療においても、プラセンタ注射薬は有効性が認められている。過去に、インタセリンという「急性歯肉炎、辺縁性歯周炎」に適応を持つプラセンタ注射薬が(株)東菱薬品工業から輸入販売されていた。インタセリンや胎盤漿による歯周組織炎への有効性の臨床研究論文は古くから存在する。

1959年浦郷の報告では、歯周病患者30症例に対して、胎盤漿を筋肉内に隔日に20回注射し、その間歯周治療を全く行わなかった。注射後の評価は腫脹、発赤、浮腫、口臭が殆ど改善していた。さらに好中球・アルカリフォスファターゼの陽性率も低下した事を報告した。その後、動物実験でも同様な結果を報告している。その後、67年には、吉田らはインタセリン13例に隔日ごとに1回から最高使用回数25回(平均5.4回)で、筋肉注射を行い、著効4例、有効6例、効果不明3例と報告し、有効な薬剤と報告した。68年には岡らは歯周病患者35例に対してインタセリンを隔日あるいは3日に1度筋注を4-12回行なった。歯周組織の発赤、腫脹、出血、排膿、歯の動揺度の改善については総体的に分析し、男性で50-70%、女性で70-80%の有効率であり、炎症消退の病理組織学的所見と一致したと報告した。一方、インタセリンパスターの局所塗布による報告もあり、20例に対して、6例著効、12例有効、効果不明2例と発表されていた。その後、78年には中静らが、辺縁性歯周炎に対する二重盲検法による薬効評価を行なった。その結果、投与4週間後に歯肉の発赤に有意差があったと報告している。

近年になり、興味深い報告がある。経口摂取によるプラセンタサプリメントによる中等度歯周炎患者(歯周ポケット4-8mm)に2ヶ月間プラセンタサプリメントとプラセボ群としてCoQ10を摂取させ、歯肉、口腔内の粘り感、咬合痛、歯周ポケットからの出血を比較検討した結果、有意差が認められた。これらの報告は、実験条件が一緒でないことなど比較には課題はあるものの、プラセンタが歯周病治療において、併用療法として有効である事を示すデータではあると考えている。これらの薬理作用は、歯周病に対する効果としては、線維芽細胞増殖作用、抗ヒスタミン作用、創傷治癒作用、鎮痛作用、抗炎症作用、免疫賦活作用などが考えられる。さらに、これらの効果に加え、精神安定作用、疲労回復作用などが、口内炎、口腔乾燥症、味覚障害、口臭症、舌痛症などの口腔疾患や口腔不定愁訴に対し効果を発揮する可能性がある。

参考文献: 王 宝禮. 口腔疾患へのプラセンタ療法の可能性. 日歯東洋医誌, 2014; 33: 22-28.
王 宝禮ら. プラセンタ(胎盤製剤)によるヒト歯肉線維芽細胞のI型コラーゲンとサイトカン産生に及ぼす影響. 薬物療法誌, 2015 印刷中.

● 入会申込書

入会の種類と費用

- (1) 専門会員 5,000 円(歯科医師または医師)
- (2) 正会員 5,000 円(専門会員以外の歯科従事者または薬剤師)
- ※年会費はありません。
- ※ご入会は歯科医療に従事される方に限ります。

● 入会の方法

当会ホームページの「入会のご案内」から、入会申込書を印刷し FAXにてお申込みください。お申込み後、1週間程度で入会金を指定口座までお振込みください。入金確認後、会員証など送付致します。入会申込書郵送希望の方はお手数ですがお電話いただくか、ホームページのお問合せフォームから送り先の住所などお書き添えの上ご依頼ください。

ホームページトップ画面



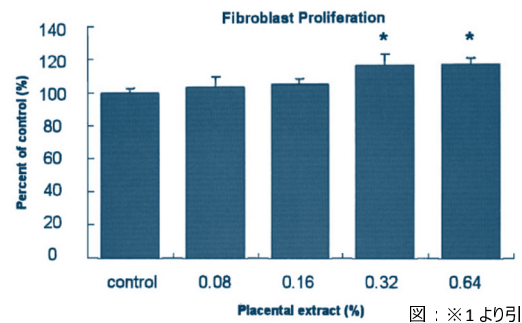
● 認定医制度 ※認定には条件があります。詳しくは研究会までお問合せください。

1. 指導医
歯科領域における胎盤(プラセンタ)療法の高度かつ専門的な知識と診療技能を有する者とし、指導的立場になり得る者を指導医として認定します。
 2. 認定医
歯科領域における胎盤(プラセンタ)療法の高度な知識と診療能力を有する者を認定医として認定します。
 3. オーラルプラセンタアドバイザー
歯科領域における胎盤(プラセンタ)療法の知識を有し、プラセンタサプリメントなどに関する正しい知識や投与方法を有する者をアドバイザーとして認定します。
- ※1. 指導医と2. 認定医は専門会員、3. オーラルプラセンタアドバイザーは正会員が対象となります。

オーラルプラセンタ医学研究会会報
発行日 2015年7月1日第1号
発行所 オーラルプラセンタ医学研究会
〒560-0055 大阪府豊中市柴原町 1-8-5-302
TEL/FAX 0800-222-4182
E-mail opmr@opmr.jp HP <http://opmr.jp/>

O P M R 薬局通信 ー薬剤師 齊藤ー

第1回目となる今回は歯科領域とプラセンタの有効性を関連付ける文献を紹介します。「The effects of placental extract on fibroblast proliferation」(J. Cosmet Sci., 59, 195-202 (May/June 2008))^{*1}



これは、プラセンタとビタミンCの線維芽細胞の増殖効果を比較検討したものです。あくまで in vitro ですが、結果としてプラセンタエキスにビタミンCと同程度の効果がある事が示唆されました。現在、FGF が歯周病の治療に用いられているようですが、線維芽細胞増殖作用以外に複数の作用を有するプラセンタはこれを補佐、相補するという観点で良いのかもしれない。基礎研究、臨床研究を含め、これから益々の発展が期待されます。



<協賛企業>

プラセンタでオーラルケア。

口腔疾患、口腔内不定愁訴に悩んでいるすべての方に。

株式会社 UTP 本社 東京都中央区日本橋本町 3-7-2-8F
TEL 03-3666-8882 FAX 03-3666-8884 <http://www.utp.co.jp>
大阪支店 大阪府大阪市中央区北浜 2-5-23-7F
TEL 06-6209-2461 FAX 06-6209-2462
福岡支店 福岡県福岡市博多区博多駅東 2-6-23-6F
TEL 092-474-8623 FAX 092-474-8622